

## 殿城庵の石仏など

滝本 やすし

### はじめに

福井県南越前町新道(旧鹿蒜村新道)の山中に殿城庵と称される場所がある。地元では殿城庵というよりも、殿デハと称するのが一般的のようである。畳四畳ほどの建物が建てられており、仏像などが納められている。この山は個人の所有で、先代が建物を建て、点在していた石仏などを納めたそうである。建物の周囲には中世の五輪塔や板碑などが数多くみられることから、ここは殿城庵という仏堂があった場所と思われる。

平成二十八年、管理所有者に同行をお願いし、足元の悪い山道を十分ほど登った。建物が見えてくると手前に石を組んだ龕が作られており、その中に女性の石像が納められている。この場所から先は現在でも女人禁制となっている。建物の鍵を開けていただくと内部には、左から順に次の尊像が並べられていた。

十王、奪衣婆、懸衣翁(以上木造十二軀、木製の棚上)。慈恵大師、六地藏、青面金剛と二童子、阿修羅王、地藏、釈迦涅槃図、地藏、狛犬、猿像、地藏、薬師如来と十二神将、角大師と西国三十三ヶ所観音、牛乗り大日、弘法大師、良源(以上石造十六軀、コンクリート製の台上)。これらのほとんどが江戸時代中期の作と思われる。

建物内にはこれらの他に、細かな文字がたくさん刻まれた石板三基、木造の経櫃、石造の経櫃、卒塔婆二基が直接床の上に置かれている。

この建物は大正時代に建てられ、昭和に修復されている。中に納められている石仏などは損傷が少ないことから、この建物が建てられる以前から屋内に長期間納められていて、屋外に放置されていたのは短期間であったと思われる。

『福井県今庄町誌』(昭和五十四年、福井県南条郡今庄町発行)に、次のように記述されている。

願大師 新道百十五字「殿デハ」という山林六十米ほど登った穉やかな中腹に祠(二米×四米)がある。その中央に横九十糎に縦六十糎の笏谷石に涅槃像、その左右に高さ五十糎から七十糎の石仏が数体安置されている。大きいのは高さ八十糎の石地藏を始め、石板内に(三十糎×六十糎)六地藏、観音像、日吉山王等その他に多くの石仏が彫刻されている。向かって左側中段には、木造寄木づくりの十王仏等が十四、五体(高さほぼ二十糎ぐらい)これは随分古めかしく黒ずんでいて、膝や台座が剥落している。経櫃二個のうち一個は六角形の石櫃で石の蓋付であり、一個は方形の木箱である。その中には二経巻がたて六糎長さ三十糎の巻物(千巻収蔵されている。屋根裏に卒塔婆二枚、文字は墨痕既に落ちて判読することができない。この年代は恐らく当初のものであろう。

この場所はおそらくそれ以前からの墓地であって、宝篋印塔のあることから寺院あるいは武士又は名士の墓と推測される。

平成元年に行われた福井県立博物館の第十一回特別展「石をめぐる歴史と文化」(笏谷石とその周辺)に、六地藏、青面金剛、釈迦涅槃図、薬師如来十二神将、石造経櫃の五点が出展され、図録に写真と解説が掲載されている。

### 十王、奪衣婆、懸衣翁

木造の十二軀は建物左壁の棚の上に二列に並べられている。後列の右端が奪衣婆で、前列の右端が懸衣翁である。十二軀はいずれも座像である。高い棚上のため採寸していないが、高さは目測で20 cm前後である。十王はほとんど同じ像容であり各々の尊名の判別が困難であるが、後列中央に置かれている他よりも大きい一体が閻魔王であろう。また奪衣婆は十王よりも小さく、懸衣翁はさらに小さい。

### 慈恵大師(元三大師)

凝灰岩製の丸彫り座像で、右手を膝の上に置き、左手に数珠を持つ。額や

頬にシワが彫られており、晩年の姿のようである。彩色されているが、かなり色あせている。高さ58 cm。慈恵大師像は目のあたりに特徴があり、滋賀県などの天台宗寺院に多くみられる木造や絵像と像容が良く似ている。石造の慈恵大師は極めて作例が少なく、角大師の像が僅かにみられるのみである。

## 六地藏

上部を山型に加工した横長の凝灰岩に、六体の地藏が横一列に浮彫りされている。高さ41 cm、幅92 cm。それぞれ蓮座上に立ち、持物は向かって左から、鉢、蓮華、数珠、柄香炉、合掌、錫杖と宝珠である。それぞれの像の右に「宝説」「妙典」「妙心」「道喜」「利」「心」と刻まれている。

## 青面金剛と二童子

縦長の凝灰岩に、青面金剛(庚申)、二童子、二鶏、二猿が浮彫りされている。青面金剛は一面六臂の憤怒形立像で、岩上の邪鬼を踏みつけている。上辺の二手は矛と輪宝を、中央の二手は剣と人身(?)を、下辺の二手は矢と弓を持っている。高さ65 cm、幅35 cm。

裏面に「奉造立辰申尊躰／志趣者鎮護村中／衆民為除災■所／安置者也未代地／■政不可致■也／皆元禄二巳天／二月十二日／願主 真福寺中興／聲蓮社尋誉代」の銘が刻まれている。尋誉上人は真福寺第八代である。

## 阿修羅王

縦長の凝灰岩に、三面六臂の憤怒形の阿修羅王立像が浮彫りされている。上辺の二手に日月を、中央の二手は胸前で組み、下辺の二手は蓮華と宝珠を持っている。高さ38 cm。石造の阿修羅王は極めて作例が少ない。後述の釈迦涅槃図の中にも、釈迦の後方に阿修羅王が彫られている。

## 地藏①

凝灰岩製の丸彫りで、蓮座上に立っている。右手に錫杖を、左手に宝珠を持っている。台座を除く高さ73 cm。

## 釈迦涅槃図

横長の大きな板状の凝灰岩に、釈迦涅槃図が浮彫りされている。下方の動物たちは線彫りである。高さ60 cm、幅90 cm。厚さはわずか数cmであり、この石板は自立できない。石造の涅槃図は作例が少ない。享保十年に作られた福井市西木田の泰清院もの(怒相院より移動)と比較すると、次の点が大きく異なっている。

(一)、仏像もみられるが神像が多く彫られている。これは神仏習合の信仰によるものと思われる。

(二)、上部に、満月ではなく日月が彫られている。釈迦は旧暦二月十五日の満月の日に入滅されており、涅槃図の中央上部には満月が描かれているのが一般的である。しかしこの涅槃図では上部左右に日月が彫られている。これは寺社曼荼羅(特に那智山をはじめとする西国三十三ヶ所の参詣曼荼羅)に習ったものであろうか。日吉山王曼荼羅には、日月は描かれない。

(三)、雲に乗って駆け付けた麻耶夫人や阿那律尊者などが彫られていない。(四)、釈迦の周りに沙羅双樹が彫られていない。麻耶夫人や沙羅双樹などが彫られていないのは、スペースの都合で単に省略しただけなのであろうか。阿難尊者や阿泥樓駄などは彫られている。

## 地藏②

凝灰岩製の丸彫りで、蓮座上に立っている。両手は胸前で合掌している。台座を含む高さ125 cm。胸部に「接譽上人」、台座に「真福寺代九世」と刻まれている。

## 狛犬

地藏②の足元に、凝灰岩製の小さな狛犬が置かれている。狛犬は、一体は完成品であるが、もう一体は残欠である。

## 猿像

地藏②の足元に、狛犬と共に凝灰岩製の小さな猿像が置かれている。丸彫りの座像で、両手で桃を持っている。猿は安産の御利益があるとされ、桃には邪気を払う力があるとされて不老長寿の象徴である。日吉山王信仰による造立と思われる。

## 地藏③

凝灰岩製の丸彫りで、蓮座上に立っている。右手に錫杖を、左手に宝珠を持っている。高さ74 cm。

## 薬師如来と十二神将

縦長の凝灰岩に、薬師如来座像とその眷属である十二神将立像が浮彫りされている。最上部中央に薬師如来が、その下に十二神将が二段にわけて六体ずつ彫られている。高さ65 cm。十二神将は像容などからそれぞれの尊名を判断するのは困難であるが、後述の西国三十三ヶ所観音と同じく右から順に並んでいると考えられる。上段右から宮毘羅大将、伐折羅大将、迷企羅大将、安底羅大将、頰彌羅大将、珊底羅大将、下段左から因達羅大将、波夷羅大将、摩虎羅大将、真達羅大将、招杜羅大将、毘羯羅大将であろう。

裏面に「奉造立薬師十二神／志趣者鎮護村中／衆民為除災■所／安置者也  
未代地／■政不可致■也／皆元禄二巳天／二月十二日／願主 真福寺中興／  
聲蓮社尋誉代」の銘が刻まれている。これは青面金剛の裏面と同じ銘文である。

## 角大師と西国三十三ヶ所観音

縦長の凝灰岩に、角大師(元三大師)を中央下部に配して西国三十三ヶ所観音が二段に並んで浮彫りされている。高さ42 cm、幅102 cm。角大師は慈恵大師が疫病を払った際の姿とされ、現在でも全国の天台宗寺院などで厄除の護符として配布されている。西国三十三ヶ所観音は、上段右から順に第一番から第十七番まで、下段左から順に第十八番から第三十三番まで並んでいる。正面右端に願主と思われる「江洲三河村大姉」の銘が刻まれている。江洲三河村は、慈恵大師良源の生誕地である滋賀県長浜市(旧浅井郡虎姫町)三川町である。大姉とだけ刻まれているので願主を特定できない。

石造の角大師は作例が少なく、東京深大寺、千葉仏法寺、群馬真光寺、群馬水澤寺のものなどが知られる。また白山の越前禅定道にあった江戸時代中期の作と思われる丸彫り像は、盗難に遭い所在不明となっている。殿城庵の角大師像は、現存する江戸時代中期の作例として貴重である。

## 牛乗り大日

凝灰岩製の丸彫りで、金剛界大日如来が牛の上に座っている。高さ45 cm。牛乗り大日の石像は全国各地にみられるが、作例はそれほど多くない。

## 弘法大師

凝灰岩製の丸彫りで、履物を脱いで、独鈷と数珠を持って座っている。高さ41 cm。

## 良源

凝灰岩製の丸彫りで、合掌して座っている僧形像。高さ61 cm。慈恵大師(元三大師)の修行時代の姿である。

## 石板三基

釈迦涅槃像の前の床上に、多くの文字が刻まれた凝灰岩製の大きな石板が三基並べられている。左右の石板は損壊が激しく判読困難であるが、中央の石板は保存状態良好でありほぼ判読できる。これには享保十七年、真福寺の第九代接誉の造立銘がみられる。

## 経櫃二基

建物内左の床上に木造の経櫃が、右の床上には石造の経櫃が置かれている。これらの中には、合わせて千巻の小さな経巻が納められている。しかし長い年月のためボロボロになっており、判読できるものはなさそうである。

木造の経櫃は、正面中央に「南無釈迦牟尼佛」、その右に「元三大師」、左に「弘法大師」の墨書きがある。石造の経櫃は上部が宝珠形に加工された蓋のついた凝灰岩製の六角形で、銘などは刻まれていない。

## 卒塔婆二枚

建物内の右に、二基の木造卒塔婆が立てかけられている。書かれていた文字は判読できなくなっている。

## 月子

建物の手前十数メートルの場所に石を組んだ龕が作られており、その中に凝灰岩製の女性像が納められている。合掌する丸彫り座像である。台座部分に破損がみられるが、保存状態は比較的良好である。像高30cm。これから先は女人禁制となっており、女性像は建物のほうへ向かうことはできない。

この女性像は建物内右端に置かれている僧形像の母親であると伝えられていることから、良源の母の月子と思われる。また女性像の手前には、ねじれ曲がったような形の石(砂岩製の川石)が置かれている。この石は、息子に会うことができない母が悔しさのためねじ曲げたものと伝えられている。

## 石板の碑文

石造釈迦涅槃像の前に置かれている三基の石板に刻まれている文字は、現地でゆっくりと読む時間がなかったので、撮影した写真から判読した。石板の番号は、向って右から順である。石板②以外は剥落が激しく、判読困難である。

### 石板①

道喜信士

.....

(この間の行数不明)

.....

.....妙.....

日比野■

### 石板②

天當山貴真福寺住代■墓所也

開山■信■應永卅二巳天正月二十五日

從■享保十七壬子迄三百八年成

第二三四五六代順生西堂第七廣誉上人

第八尋誉上人第九接誉上人代■

ナムアミダブ(梵字) 迎接自来「花押」

惣三界万灵六親眷属有■縁■

別新道西村老若男女現當兩益生ハ

一切■灵生極楽上品蓮臺成正覚

菩提行願不退轉引導三有及法界

尚享保十七壬子年■之 接誉敬白

### 石板③

……… 再建………  
天絶■ ■ 廃興者聖賢君  
子之……… 日余  
歳星………  
聚隙……… 之  
是則……… 以照………  
楊諸衆生金言………  
……… 以廻向………  
………  
伏………

石板②の碑文より、この場所が真福寺歴代の墓所であったことがうかがえる。石板②に刻まれている「一切精灵生極樂上品蓮基成正覺菩提行願不退轉引導三有及法界」は、浄土宗の偈文の一切精靈偈である。石板③に刻まれているのは再建の経緯であろうか。

### 良源(慈恵大師、元三大師、角大師)と母月子

良源は、延喜十二年(九一二)九月三日に近江國浅井郡虎姫字三川の豪族である木津家で生まれた。十二歳頃に比叡山に入り、康保三年(九六六)に天台座主となった。朝廷から贈られた諡号は慈恵。永観三年(九八五)一月三日に入寂されたことから、元三大師の通称で呼ばれる。全国の寺社にみられるおみくじの創始者として知られる。天台系寺院で配布される角大師の護符は、慈恵大師が疫病神を退治した時の姿とされる。

比叡山で修行を行っていた良源は、遠く離れた三川村に住む母を、比叡山の麓の千野に迎え住まわした。比叡山は女人禁制であったため、山に向い入れることはできなかった。良源は麓に住む母のもとへ毎晩のように通い続けたといわれる。良源が天台座主となった翌月に、母月子は亡くなった。千野の月子住居跡はその後、天台宗安養院として月子が祀られている。

### おわりに

慈恵大師は天台宗比叡山の中興であり、弘法大師は高野山真言宗の宗祖である。また青面金剛、地藏②、薬師如来と十二神将、そして石板には新道の浄土宗真福寺による造立銘が刻まれている。殿城庵を降りて管理所有者宅に戻ったところで、住宅裏の墓地に案内された。そこに建てられていた古い墓標とされる石塔には「南無妙法蓮華経」の文字が読み取れた。管理所有者は浄土宗真福寺の檀家である。既に私の頭の中は既に混乱している。

殿城庵に残されている石仏などは年代が異なる複数名による造立であるが、真福寺による造立のもの以外にはほとんど銘が刻まれておらず、造立の経緯などは不明である。更なる考察が今後の課題である。



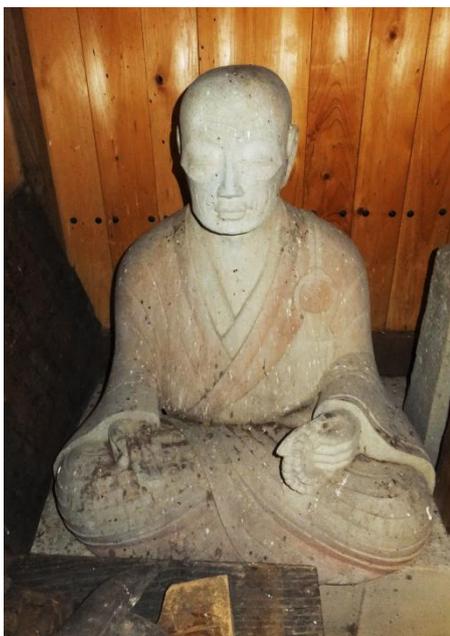
建物内の中央より左



建物内の中央より右



木造の十王、奪衣婆、懸衣翁



慈恵大師



六地藏



青面金剛と二童子



阿修羅王



地藏①



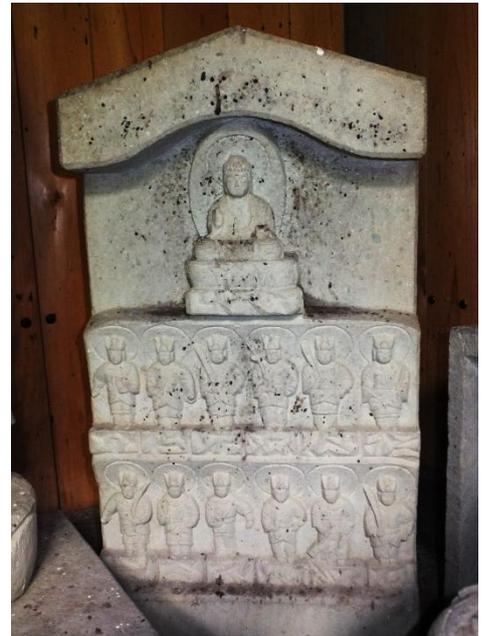
釈迦涅槃図



地藏②



地藏③



薬師如来と十二神将



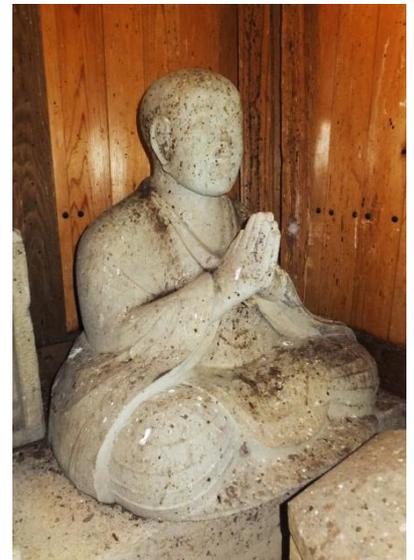
角大師と西国三十三ヶ所観音



牛乗り大目



弘法大師



良源(慈恵大師)



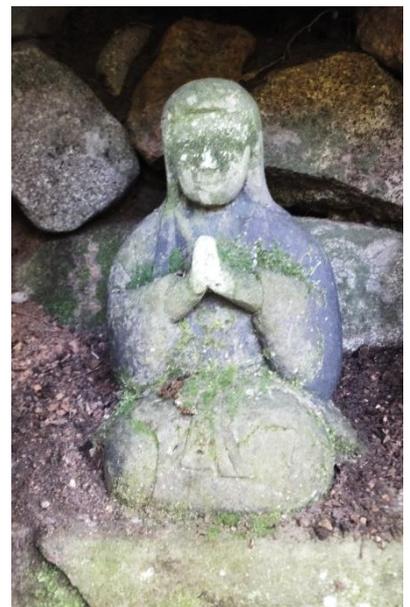
石板②



木造經櫃



石造經櫃



月子